ApeosPort-IV C5575
ApeosPort-IV C4475
ApeosPort-IV C3375
ApeosPort-IV C2275
ApeosPort-IV 7080
ApeosPort-IV 6080
ApeosPort-IV 5080
ApeosPort-IV 4070
ApeosPort-IV 3070

DocuCentre-IV C5575
DocuCentre-IV C4475
DocuCentre-IV C3375
DocuCentre-IV C2275
DocuCentre-IV C2263
DocuCentre-IV 7080
DocuCentre-IV 6080
DocuCentre-IV 5080
DocuCentre-IV 4070
DocuCentre-IV 3070

追加機能説明書

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。
万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

はじめに

本書には、次の機種をお使いのかたを対象に、本機のソフトウエアのバージョンアップによって Ver.1.21 から（G4 通信対応の機械は Ver.1.61 から）追加 / 変更される内容を記載しています。

- ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- ApeosPort-IV 7080/6080/5080
- ApeosPort-IV 4070/3070
- DocuCentre-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-IV C2263
- DocuCentre-IV 7080/6080/5080
- DocuCentre-IV 4070/3070

本機の性能を十分に発揮させ効果的にご利用いただくために、お使いになる前に必ず、『ユーザーズガイド』および『管理者ガイド』とあわせて本書をお読みください。本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

本書に記載している以外の追加機能について、次に示す別冊のマニュアルがあります。本機に同梱の CD-ROM、または、富士ゼロックスのホームページからダウンロードして参照ください。なお、通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

■ サーバーレスオンデマンドプリント 取扱説明書

機器を連携したプライベートプリント機能を利用する方法、および使用上の注意事項などを記載しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や本機のイラストは、お使いの機種によって異なる場合があります。
- 本書に記載している画面や本機のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機械の構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウエアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記

- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足

- 補足事項を記述しています。

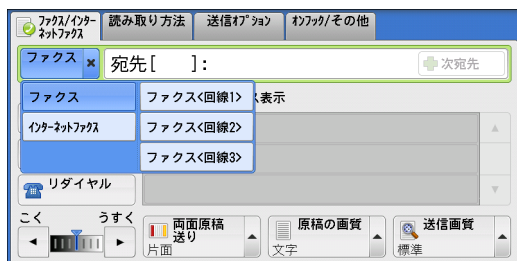
- 本文中では、次の記号を使用しています。

「　」	• 本書内にある参照先を表しています。 • CD-ROM、機能、タッチパネルディスプレイのメッセージなどの名称や入力文字などを表しています。
『　』	• 参照するマニュアルを表しています。
[　]	• 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
〈　〉ボタン	• 操作パネル上のハードウエアボタンを表しています。
＞	• 操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。 例：「[仕様設定 / 登録] ＞ [登録 / 変更] ＞ [ボックス登録] を選択します。」は、「[仕様設定 / 登録] を押して、[登録 / 変更] を押したあと、[ボックス登録] を選択します。」という手順を省略して記載したものです。 • 参照先は、次のように表しています。 例：「『管理者ガイド』の「5 仕様設定」＞「共通設定」＞「音の設定」を参照してください。」は、管理者ガイドの「5章 仕様設定」内の、「共通設定」での「音の設定」を参照することを表しています。

ファクス

ファクスに関連する追加機能について説明します。

回線（ポート）の指定

宛先指定時に、基本ファクス画面のドロップダウンメニューから回線（ポート）を選択できるようになりました。

補足
- 1 回線だけをお使いの場合は、回線指定が不要なため、ドロップダウンメニューは表示されません。
- G4 通信対応の機械もこの方法で回線を指定できます。
- キーボードから入力する方法でも回線を指定できます。

本機能は、宛先表に登録してあるファクス番号と組み合わせて使用することもできます。本機能で回線を選択したあと、ワンタッチボタン、短縮ボタン、宛先表から組み合わせたい宛先を指定します。

ワンタッチボタン、短縮ボタン、宛先表から呼び出した番号や、キーボードで入力した番号で回線が指定されていても、本機能を使用して回線を重複して指定した場合は、本機能を使用して選択した回線が優先されます。

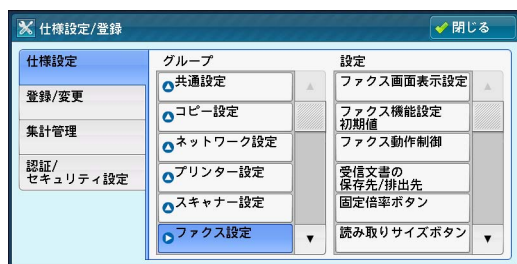
- 宛先表から呼び出した番号（<1>0123456789）で回線 1 を指定し、さらにドロップダウンメニューから回線 2 を指定した場合

  表示例：<2><1>0123456789

  この場合、ドロップダウンメニューで選択した <2>（回線 2）が優先されます。

補足
- 組み合わせて使用する場合は、［仕様設定］＞［ファクス設定］＞［ファクス動作制御］で［チェーンダイヤル］を［使用する］に設定してください。

回線選択メニューを表示させる

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［仕様設定］＞［ファクス設定］＞［ファクス画面表示設定］を押します。

2 ［ファクス回線選択の表示］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

3 ［ファクス回線選択の表示］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

4 ［する］を選択し、［決定］を押します。

5 ファクス回線（ポート）の名称を変更する場合は、［ファクス回線 1 の名称］～［ファクス回線 3 の名称］を選択し、表示させる名称を入力します。

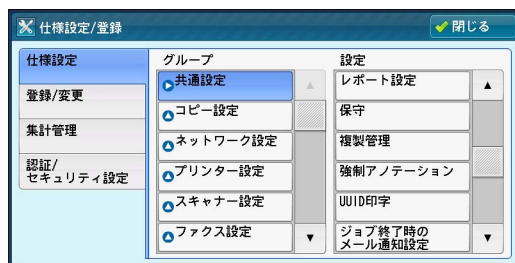
補足

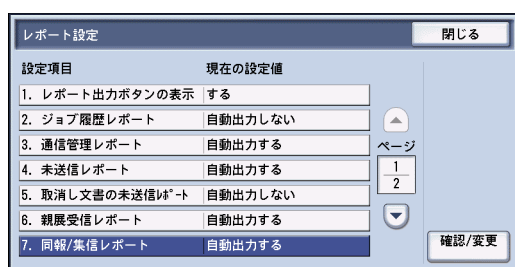
- 装着されているオプションによって、表示される項目が異なります。

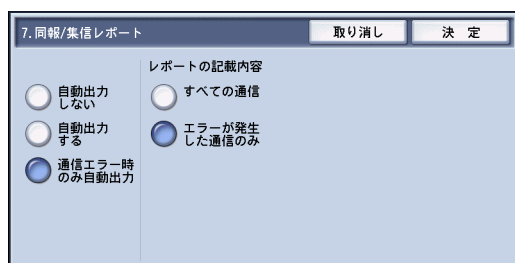
6 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

同報 / 集信レポート

同報 / 集信レポートの自動出力について、[自動出力しない]、[自動出力する] に加えて、[通信エラー時のみ自動出力] が設定できるようになりました。

1 [仕様設定 / 登録] 画面で、[仕様設定] > [共通設定] > [レポート設定] を押します。

2 [同報 / 集信レポート] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

補足

- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面が表示できます。

3 [通信エラー時のみ自動出力] を選択します。

4 レポートの記載内容を選択し、[決定] を押します。

■ すべての通信

通信エラーが発生した場合、すべての通信結果をプリントします。

■ エラーが発生した通信のみ

通信エラーが発生した場合、エラーが発生した通信結果のみプリントします。

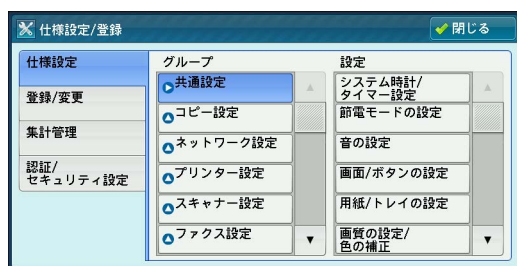
5 メニュー画面が表示されるまで、[閉じる] を押します。

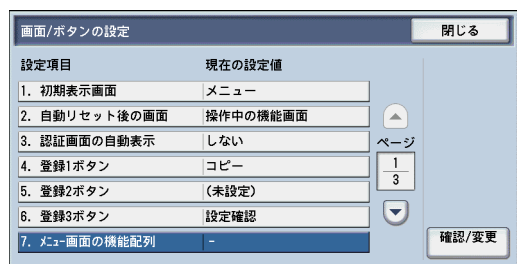
ファクス受信文書の確認

ペーパーレスファクス機能を使用している場合、受信回線別ボックスセレクターで指定した親展ボックスを、メニュー画面の機能ボタンに割り当てられるようになりました。

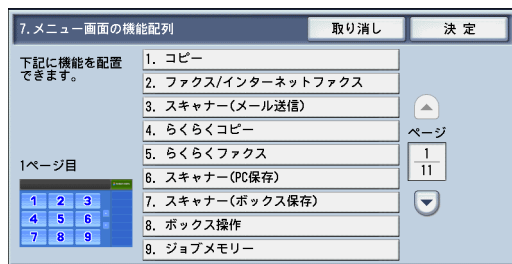
機能ボタンには親展ボックスに格納されている文書数が表示され、ボタンを押すと、親展ボックス内の文書を確認できます。

親展ボックスを機能ボタンに割り当てる

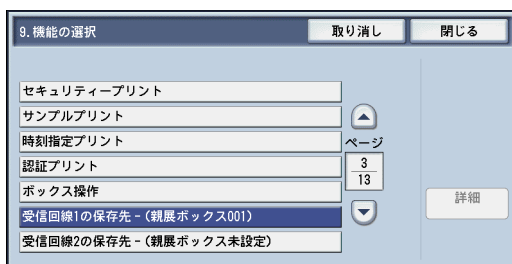
1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［仕様設定］＞［共通設定］＞［画面 / ボタンの設定］を押します。

2 ［メニュー画面の機能配列］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。

3 変更する機能（配置したい場所）を選択します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。
- ［メニュー画面の機能配列］画面に表示されているボタンの位置は、メニュー画面に表示される機能のボタンの位置を表しています。

4 メニュー画面に表示させる受信回線の保存先（親展ボックス）を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。
- 同じ機能を複数のボタンに登録できません。

5 ［閉じる］を押します。

6 ［決定］を押します。

7 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

IP ファクス（SIP）

本機の IP ファクス（SIP）機能の概要が、一部変更になりました。ユーザーズガイド、および管理者ガイドの該当する記載を以下に読み替えてください。

IP ファクス（SIP）について

IP ファクス（SIP）とは、国際標準 ITU-T 勧告 T.38 に準拠したインターネットファクスの総称です。

IP ファクス（SIP）を利用すると、企業内の IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信したり、NTT が提供するひかり対応ゲートウェイを経由して、次世代ネットワーク（NGN）対応機種同士で通信することができます。

補足

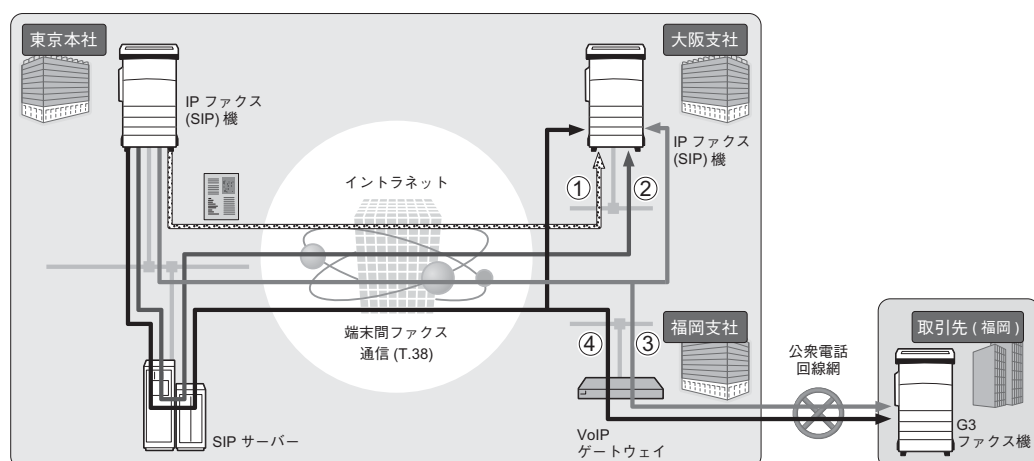
- NGN とは、Next Generation Network の略称です。

企業内ネットワーク（イントラネット）を利用する

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を経由して、イントラネットに接続された機器同士で文書の送受信ができます。イントラネット内では、文書の送受信による通信費がかからないため、本社と各拠点間などの通信に適しています。また、イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由すれば、イントラネットの外へ送信する場合でも通信費を削減できます。

補足

- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応 IP ファクス搭載複合機種間で交信性を確認しています。対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- IP ファクス（SIP）の設定については、『管理者ガイド』の「仕様設定」＞「ネットワーク設定」＞「SIP 設定」および「IP ファクス（SIP）の設定」を参照してください。

IP ファクス（SIP）は、SIP サーバーや VoIP ゲートウェイと組み合わせることで、次のような通信が可能になります。

■ SIP サーバー

SIP サーバーを利用すれば、SIP ユーザー名や電話番号で宛先を指定できます。

SIP サーバーには主に次の機能があります。

- IP ネットワーク上の本機のアドレス情報を受け取り、データベースに登録する（レジストラーサーバー）

- SIP クライアントからのリクエストやレスポンスを中継する（プロキシサーバー）

■ VoIP ゲートウェイ

IP ネットワークと公衆電話回線網との間でファクス通信を中継する装置です。G3 ファクス機と通信するときに必要です。

補足

- 動作を確認している SIP サーバーは、Cisco MCS 7800 シリーズ（Cisco Unified Communications Manager 6.0/6.1/7.1/8.0 搭載機）です。
- 動作を確認している VoIP ゲートウェイは、Cisco ISR 2800 シリーズ（Cisco IOS12.4 搭載機）です。
- SIP サーバーおよび VoIP ゲートウェイの設置について詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- IP ファクス（SIP）でサポートされている通信モードは G3 です。

IP ファクス（SIP）には、4 つの接続構成があります。

接続構成によって、宛先の入力形式が異なります。

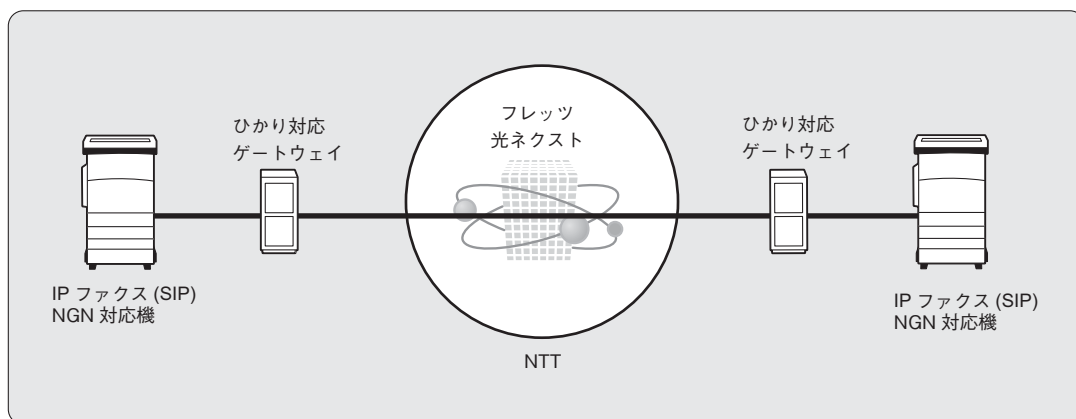
参照

- 詳しくは、『ユーザーズガイド』を参照してください。

次世代ネットワーク（NGN）を利用する

次世代ネットワーク（NGN）とは、従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた、次世代の情報通信ネットワークです。

NTT が提供する「フレッツ光ネクスト」のひかり対応ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）NGN 通信が可能になります。

補足

- NGN とは、Next Generation Network の略称です。
- NGN 通信ができる対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。送信相手が NGN 通信に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。
- 次世代ネットワーク（NGN）の設定については、『管理者ガイド』の「仕様設定」＞「ネットワーク設定」＞「次世代ネットワーク（NGN）設定」、「SIP 設定」および「IP ファクス（SIP）の設定」を参照してください。

■ 宛先の指定方法

宛先は、電話番号で指定します。

宛先入力例：　　0312345678

必要な条件

- IP ファクス（SIP）キットが装着されていること
- NTT と NGN 契約が完了していること

ほかのファクスとの違い

企業内の IP ネットワークを利用した IP ファクス（SIP）でも、電話番号別ボックスセレクター機能を使用できるようになりました。

IP ファクス（SIP）で利用できる主な機能を一般のファクスと比べると、次のようになります。

機能	一般のファクス[*1]	企業内ネットワーク（イントラネット）			次世代ネットワーク（NGN）
		IPファクス（SIP）のみ	SIPサーバー経由	VoIPゲートウェイ経由	IPファクス（SIP）+NGN
リダイヤル	○	○	○	○	○
中継同報[*2]	○	○[*3]	○[*3]	○[*3]	○[*3]
自局名	○	○	○	×	○
通信モード	○	○	○	○	○
優先通信	○	○	○	○	○
時刻指定	○	○	○	○	○
送信シート	○	○	○	○	○
送信先部数	○	○	○	×	○
親展通信	○	○[*4]	○[*4]	○[*5]	○[*4]
Fコード通信	○	○	○	○	○
ポーリング	○	○[*6]	○[*6]	○[*6]	○[*6]
オンフック	○	×	×	×	×
手動送信	○	×	×	×	×
手動受信	○	×	×	×	×
ダイレクトファクス	○	○	○	○	○
電話番号別ボックスセレクター	○	○[*7]	○[*7]	○[*7]	○
受信回線別ボックスセレクター	○	○	○	○	○
受信回線別排出先	○	○	○	○	○

○：利用できる　×：利用できない

*1 公衆電話回線網に接続された G3 および G4 ファクス機を指します。

*2 中継同報指示局としての機能を指します。

*3 F コード方式の中継同報を利用できます。

*4 FAX 信号方式および F コード方式で親展通信が利用できます。

*5 F コード方式の親展通信が利用できます。

*6 ポーリングおよび親展ポーリング予約を利用できます。

*7 企業内ネットワークでの IP ファクス（SIP）利用時は、電話会社との契約によらず、発信者電話番号を取得したい場合は、［仕様設定］＞［ファクス設定］＞［ファクス動作制御］＞［回線 SIP 付加サービス］の［発信電話番号］を［あり］に、自局の電話番号を取得したい場合は、［仕様設定］＞［ファクス設定］＞［ファクス動作制御］＞［回線 SIP 付加サービス］の［ダイヤルイン］を［あり］に設定します。

補足

- 利用できない機能の中には、タッチパネルディスプレイにボタンが表示されないものがあります。

スキャン

スキャン機能では、保存する / 送信する文書のファイル名の形式を選択できるようになりました。

[スキャナー（ボックス保存）]、[スキャナー（USB メモリー保存）]、[スキャナー（PC 保存）]、[スキャナー（URL 送信）] を使用する場合、保存する / 送信する文書のファイル名の形式を選択できます。

参照

• 詳しくは、「ファイル名の設定」(P.12) を参照してください。

[スキャナー（メール送信）] を使用する場合、送信する文書のファイル名の形式と、日付やページ番号を付加するかどうかを選択できます。

参照

• 詳しくは、「ファイル名の設定」(P.12) を参照してください。

CentreWare Internet Services から親展ボックスに蓄積されている文書を取り込む場合、文書のファイル名の形式を選択できます。

参照

• 詳しくは、「文書取り出し時のファイル名の設定」(P.14) を参照してください。

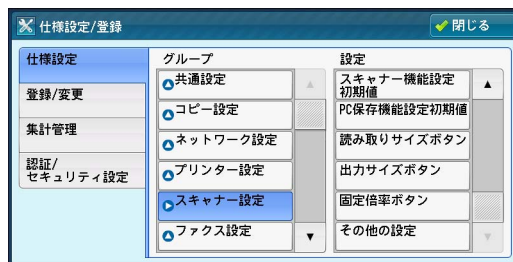
ファイル名の設定

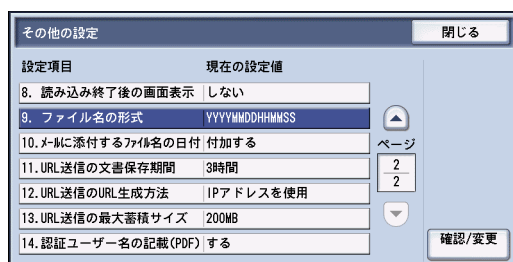
スキャン文書のファイル名について設定します。

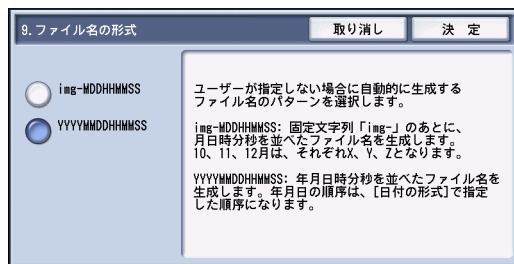
ここでは、本機で設定する手順を説明します。

補足

• CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。

1 [仕様設定 / 登録] 画面で、[仕様設定] ＞ [スキャナー設定] ＞ [その他の設定] を選択します。

2 [ファイル名の形式] を選択し、[確認 / 変更] を押します。

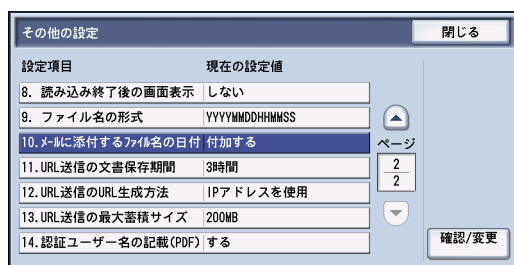
補足

• [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面が表示できます。

3 ［img-MDDHHMMSS］または［YYYYMMDDHHMMSS］を選択します。

補足

- この設定は、［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（USB メモリー保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］のファイル名に対して有効になります。
- ［img-MDDHHMMSS］を選択した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。
- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日の順序は、［仕様設定］＞［共通設定］＞［日付］の［日付の形式］で指定した順序になります。

4 ［決定］を押します。

5 ［スキャナー（メール送信）］で、ファイル名に日付やページ番号を付けるかどうかを設定する場合は、［メールに添付するファイル名の日付］を選択し、［確認 / 変更］を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面が表示できます。

6 ［付加する］または［付加しない］を選択します。

補足

- インターネットファクスで送信した場合も、この設定が適用されます。
- 手順３の［ファイル名の形式］で［YYYYMMDDHHMMSS］を指定した場合は、［付加しない］を選択しても、ファイル名に日付が付加されます。

7 ［決定］を押します。

8 メニュー画面が表示されるまで、［閉じる］を押します。

文書取り出し時のファイル名の設定

CentreWare Internet Services から、親展ボックスに蓄積されている文書を取り込むときのファイル名の形式を設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

補足
- 詳しくは、『管理者ガイド』の「CentreWare Internet Services の設定」＞「CentreWare Internet Services を起動する」を参照してください。

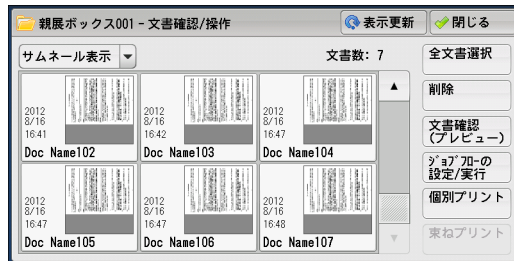
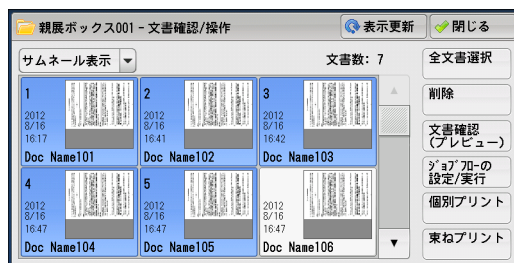
2 ［プロパティ］タブ＞［一般設定］＞［Internet Services 設定］をクリックします。

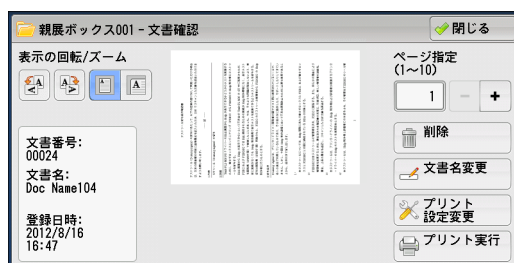
3 ［ボックス文書取り出し時のファイル名］で、［img 文書番号］または［文書名］をクリックします。

4 ［新しい設定を適用］をクリックします。

親展ボックスの文書の確認

親展ボックスに蓄積された文書のプレビュー表示画面と、画面上で選択できる機能が変更になりました。

1 ［親展ボックス - 文書確認 / 操作］画面で、文書を選択します。

2 ［文書確認（プレビュー）］を押します。

3 複数の文書を選択した場合は、プレビューを表示させたい文書を選択します。

4 任意の項目を選択します。

■ 表示の回転 / ズーム

ドロップダウンメニューをアイコンに変更することにより、プレビュー中の画像をワンタッチで回転または拡大・縮小できるようになりました。

回転表示では、従来の格納時の画像の角度ではなく、現在表示されている画像の角度から左右 90 度回転を指定します。

また、拡大・縮小アイコンでは、ページ全体を表示するか、200% に拡大して表示するかを選択します。

■ ページ指定

プレビュー表示するページを指定します。

■ 削除

複数の文書を選択した場合でも、それぞれの文書のプレビュー画面から削除できるようになりました。

選択した文書を削除します。

■ 文書名変更

登録されている文書名を変更できます。表示されるキーボードを使用して、文書名を入力します。

■ プリント設定変更

プレビュー画面からプリント設定を変更できるようになりました。

プレビュー表示中の文書のプリント設定を変更します。

■ プリント実行

複数の文書を選択した場合でも、それぞれの文書のプレビュー画面からプリントできるようになりました。

プリントします。

ソフトウエアバージョンアップ

インターネットを使った EP システムを利用している場合で、本機のソフトウエアのバージョンアップが必要になったときに、ソフトウエア更新をすぐに実行したり、日時を指定して実行したりできるようになりました。

注記

- ソフトウエアがダウンロードされると、自動的に再起動して、ソフトウエアの更新を行います。そのあと再び自動的に再起動し、メニュー画面が表示されたらソフトウエアバージョンアップは終了です。ソフトウエアバージョンアップが終了するまで、電源は切らないでください。

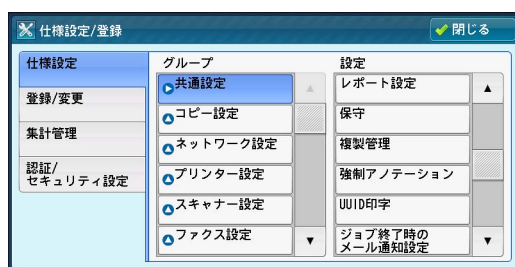
補足

- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。詳しくは、『管理者ガイド』の「付録」＞「EP システムについて」を参照してください。

ここでは、本機で設定する手順を説明します。

補足

- バージョンアップの日時は、CentreWare Internet Services を使用して設定することもできます。
- 本機能を利用するには、EP システムのご利用に加えて専用の契約が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［仕様設定 / 登録］画面で、［仕様設定］＞［共通設定］＞［保守］を選択します。

2 ［ソフトウェアバージョンアップ］を選択します。

■ バージョンアップ実行

すぐにバージョンアップを行います。

■ 日時を指定して実行

日時を指定してバージョンアップを行います。

［する］を選択し、バージョンアップを実行する日時を指定します。

エラーコード

ファクスに関連する一部のエラーコードが変更になりました。

参照

- 次の表に記載されていないエラーコードについては、『管理者ガイド』を参照してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-313	【原因】 本機とファクス制御部の間の接続にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-320 033-321 033-322 033-323 033-325 033-329	【原因】 ファクス通信中にエラーが発生しました。 【処置】 本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じメッセージが表示された場合は、弊社のテレフォンセンターまたは販売店にご連絡ください。
033-503	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生し、ファクス通信が中断されました。 【処置】 発信の場合は、もう一度操作をしてください。 着信の場合は、相手先が送信を途中でキャンセルした、または電話の着信であった可能性があります。相手先に確認してください。
033-504	【原因】 ファクスの使用中にエラーが発生し、ファクス通信が中断されました。 【処置】 発信の場合は、もう一度操作をしてください。 着信の場合は、再送信を相手先に依頼してください。
033-523	【原因】 回線（チャネル 1）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 1）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。 ホームゲートウェイ、ターミナルアダプターなどの機器に接続している場合は、接続機器が正しく動作しているか確認してください。
033-524	【原因】 回線（チャネル 2）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 2）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。 ホームゲートウェイ、ターミナルアダプターなどの機器に接続している場合は、接続機器が正しく動作しているか確認してください。

エラーコード	原因 / 処置
033-525	【原因】 回線（チャネル 3）が正しく接続されていません。 【処置】 回線（チャネル 3）の接続を確認し、正しく接続し直して、もう一度操作してください。 ホームゲートウェイ、ターミナルアダプターなどの機器に接続している場合は、接続機器が正しく動作しているか確認してください。
033-545	【原因】 ファクスの相手先から応答がありませんでした。 【処置】 電話番号が正しいか確認し、もう一度操作してください。 それでも状態が改善されないときは、相手先がファクスではなかったり、相手先のファクスの電源が切れていたり、手動受信モードになっていたりする可能性があります。相手先に確認してください。